

フィールドワークの思い出（大分県・福岡県）：教育史学ゼミ

教育史学研究室は、令和8(2026)年2月24日(火)から27日(金)に、大分県・福岡県にフィールドワークに行きました(道徳教育研究室と合同実施)。

1日目は大分県中津市で、福澤諭吉(1835-1901)の旧居と記念館を訪問。下級武士の出自ながら学問を修め続け、慶應義塾を開き、世界に誇る洋学者に至る人生に感銘を受けました。中津城付近を散策したところ、街角のあちこちに地元の偉人の箴言が写真と合わせて掲示されていました。生活の身近なところに学びがある土地柄でした。

2日目は宇佐神宮を正式参拝。本殿や境内の説明を受けた後、宝物館を見学しました。道鏡事件で、和氣清麻呂(733-799)が神託を受けた土地などを巡りました。広大な境内と神事・祭礼の維持に尽力されている神職の方々に敬服しました。次に日田市に向かい、豆田町(重要伝統的建造物群保存地区)で見聞を広めました。廣瀬資料館では、廣瀬淡窓(1782-1856)の教育観や貴重な史料を閲覧できました。

3日目は市立桂林小学校で、淡窓の教えを現代に生かしている取り組みを視察。教職員・保護者・地域住民が一体となって子どもの教育にかかわっていました。その後、桂林荘の跡地と長生園(廣瀬家墓所)を経て、咸宜園と咸宜教育センターに移動。淡窓の教育活動について、1ヶ月に9回の試験を実施しており、徹底的な実力主義の教育に目を見張りました。しかし、彼は知識の修得だけでなく、門下生の心を育てて人間性も磨きました。興味深いのは“放学(厳しい課業から離れる)”の機会もあり、“遊山”として野山や川に遊んで漢詩を詠んだりしていたことです。全国から入門者が殺到し、各分野で活躍した人材を多数輩出した咸宜園の魅力を垣間見ました。

4日目は博多に移動してグループ調査を実施。元寇資料館や筥崎宮などを訪れて、壱岐・対馬、博多沿岸部の被害状況を知り、あらためて大陸や朝鮮半島からの侵略に対する防衛の土地であったことを認識できました。国難を乗り越えられた龜山上皇(1249-1305/第90代天皇:在位1260-1274)や北条時宗(1251-1284)に尊崇の念を抱いた次第です。

歴史を肌を感じる、有意義な行程となりました。各地で先人の生き様や生活の営みに触れることができました。ゼミ生同士の親睦も深まり、貴重な経験を共有できました。学びの成果を、今後に生かしてくれることを期待します。



〈宇佐神宮の解説〉



〈記念写真〉



〈桂林荘の跡地〉



〈お墓参り〉



〈咸宜園でのレクチャー〉



〈夕食時の交流〉